

<対策のポイント>

米の需要減により米価が低迷する一方、肥料等の生産資材価格の高騰等によって、稲作農業は大変厳しい状況に置かれています。今後、輸出等の新たな需要への的確な対応を通じて需要拡大を図りつつ、農業者の所得を確保し、稲作農業の体質を強化するため、米の超低コスト生産、米の付加価値向上・流通合理化モデル創出に向け、加速させる環境の整備及び取組を支援します。

<事業目標>

- 担い手の米生産コスト (9,600円/60kg)
- 米の需要拡大 (消費量51kg/年・人 [令和12年度])

<事業の内容>

1. 米の超低コスト生産支援

米の輸出拡大等に向けて、農業者や地方自治体、農業団体など地域の関係者が連携して、大幅なコスト低減を目指す産地に対して、**コスト分析やコスト低減に係る取組状況の把握、課題抽出、必要となる技術実証、人材育成等の取組を総合的に支援**します。

(補助率：定額 (上限840万円/コンソーシアム))

- ※ 1 事業実施期間は最長3年間とします。
- ※ 2 1年目及び2年目の年度末に各産地の取組状況や成果について中間評価を行い、翌年度の支援対象産地を決定します。

2. 米の付加価値向上・流通合理化支援

多様な消費者・実需者ニーズに対応するため、**生産から消費に至るまでの情報の連携 (スマート・オコメ・チェーン) による米の付加価値向上・流通合理化モデル創出に向けた取組等を支援**します。

(補助率：定額)

<事業の流れ>



<事業イメージ>

米の超低コスト生産支援



<超低コスト生産に向けた取組>

- 産地や担い手の生産コストの現状把握・分析
- コスト低減に係る取組状況の把握、課題の抽出
- コスト削減の技術等実証、人材育成
- 取組成果の検証と改善策の検討

米の付加価値向上・流通合理化支援



スマート・オコメ・チェーンを活用した、米の付加価値向上・流通合理化のモデル創出に向けた関係者によるデータ連携の実証